

第6回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 大阪

大阪医科薬科大学医学部リハビリテーション医学教室 佐浦隆一

第6回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 大阪は17号/18号の“ダブル台風”直後の2024年10月4~5日にグランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルームにて社会医療法人ささき会藍の都脳神経外科病院理事長/院長の佐々木庸(いさお)先生が大会長となって開催されました。

佐々木庸大会長は「スティミュレーションセラピーは刺激(Stimulation)とリハビリテーション治療の単純な併用(Combine)から、さまざまな刺激治療の融和(Hybrid)により生み出された新しい治療法へ発展(爆発的跳躍・トランスフォーメーション)し続けている。」と述べられ、大会テーマに「融和 爆発的跳躍へ」を掲げられました。

学術大会では、脳血管障害により右片麻痺を患った歯科ドクターご自身が、発病からスティミュレーションセラピーと日常の工夫により、復職に至るまでの軌跡(奇跡)を語られたこと、積極的な討論を期待して大会長が一般演題すべてをシンポジウム形式にしたことにより、目論み通りセッション終了後も廊下でディスカッションが続いた様子など、スティミュレーシ



第6回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 大阪ポスターと大会長の佐々木庸(いさお)先生

ンセラピーの爆発的跳躍につながる講演や発表、討議が満載で大いに盛り上がりました。

2日間で医師55名、関連専門職130名、学生3名(総数188名)が参加登録した学術大会はかくも成功裡に閉会しました。

第7回学術大会は2025年7月17~18日に伊藤丈雄先生(医療法人雄心会理事長)が「自然との融合」をテーマに函館市で開催されます。夏の北海道!ですので、是非ともご参加ください。

第59回日本脊髄障害医学会

筑波大学医学医療系リハビリテーション医学 清水如代

2024年11月7~8日に、沖縄県名護市の万国津梁館において、第59回日本脊髄障害医学会(札幌麻生脳神経外科病院脳神経外科 飛驒一利会長)が開催されました。あいにく天候は曇りと雨で、涼しいくらいではありましたが、「多様化社会で求められる医療」というテーマの下、多彩なバックグラウンドを持つ方々が計470名参加され、活発な討論が繰り広げられました。東北大学の出澤真理教授による特別講演では、Muse細胞の働きや再生医療の可能性について学ぶことができました。また、3つのシンポジウムでは、性機能や排泄、脊髄損傷リハビリテーション治療の最前線、再生医療を用いない脊髄損傷治療など、様々な側面から脊髄損傷者のQOL向上を目指した議論で盛り上がりました。全員懇親会では、エイサーを間近で鑑賞しながら、全国から参加されたスペシャリストの先生方とお話する機会に恵まれ刺激を受けました。筑波大学リハビリテーション科からは、医師3名、理

躍動感あふれるエイサー鑑賞(懇親会)



雨の中の集合写真(筑波大学整形外科、リハビリテーション科)

学療法士2名、看護師1名が参加し、脊髄損傷治療の多職種連携の重要性を再確認しました。多診療科の先生方と情報共有を密にし、多職種からなる脊損リハビリテーションチームの構築を計画するに至りました。すばらしい会に参加できたことに感謝申し上げます。